事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

# 陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる　心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

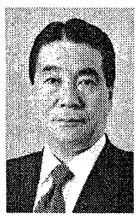
Vol.24
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 北海道支部 | 〒060-0807 | 札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14 | 電話(011)738－0641 | ＦＡＸ(011)738－0640 |
| 東北支部 | 〒984-0816 | 仙台市若林区河原町１－３－24(大和第２ビル１Ｆ) | 電話(022)716－6701 | ＦＡＸ(022)716－6710 |
| 関東支部 | 〒103-0001 | 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18(日本橋ＳＫビル４Ｆ) | 電話(03)3639－1571 | ＦＡＸ(03)3639－3980 |
| 北信越支部 | 〒950-0951 | 新潟市鳥屋野２－11－16(古木工業ビル１Ｆ) | 電話(025)282－1031 | ＦＡＸ(025)284－7810 |
| 中部支部 | 〒460-0008 | 名古屋市中区栄３－25－43(瑞穂ビル２Ｆ) | 電話(052)249－7661 | ＦＡＸ(052)242－6280 |
| 近畿支部 | 〒530-0012 | 大阪市北区芝田１－４－14(芝田町ビル８Ｆ) | 電話(06)4802－3071 | ＦＡＸ(06)4802－3070 |
| 中国支部 | 〒730-0017 | 広島市中区鉄砲町５－21(協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ) | 電話(082)511－2051 | ＦＡＸ(082)227－2720 |
| 四国支部 | 〒760-0055 | 高松市観光通２－２－15(ダイヤビル本館７Ｆ) | 電話(087)812－0131 | ＦＡＸ(087)812－0130 |
| 九州支部 | 〒812-0011 | 福岡市博多区博多駅前４－10－13(奥村第３ビル４Ｆ) | 電話(092)472－7000 | ＦＡＸ(092)472－7100 |

ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Ｅメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

## 仮設安全時評

## 教育現場が担うべき使命感



学校法人中央工学校
中央工学校土木測量学部長
アクト情報ビジネス専門学校長
柳井　修一

私ども中央工学校では来たる10月に、本紙『ACCESS新聞』を主宰している全国仮設安全事業協同組合のご協力のもと、仮設安全に関する授業を開催することにしています。授業では仮設組合の小野辰雄理事長にご講演していただくとともに、安全な足場の組立・解体などを見学、実習します。正式教科として来年度以降も実施する予定です。

本校では従来から、土木工学科の専門科目として「安全管理・土木法規」の教科を設けています。必須科目で、半分は法令ですが、安全管理だけでも30時間余りを割いています。しかし、かねてから私は「具体的な実習をしたい。もっと充実したい」と考えていました。

本校卒業生はほとんど全員が建設業界に就職します。一方、建設業にとって「人命尊重」と「労災防止」はパッケージであろうと考えています。この二つは極めて大事なことであり、在学中に教え込み、理解させる必要があると信じているわけです。そのことが徹底できていないと、社会人になり、さらに管理する側になったとき大変な思いをすることになる。そうした思いが背景にあったのです。

少し大げさに言えば、教育現場が担うべき使命感とでも言ったらいいでしょうか。また、その結果、仮設安全教育に熱心に取り組んでいるということが本校の特徴となり、特色として広く周知できれば喜びも倍加しようというものです。建設物をつくるのは人なのですから、人命を尊重しない現場で良いものができるはずもありません。そのことを「安全確保の必要性」を通して教育していきたいと考えているわけです。

無論、大学との違いをどういう形で打ち出すかという専門学校としての立場もあります。一方で、教育機関にとって、専門的で高度な教育を実施するという大きな流れもあります。本校の在校生の10人に1人、いわゆる1割は短大などを卒業した学生が占めています。教科の中心は施工管理ですが、それに付随して当然「安全管理」が必要になります。ものづくりを追求すれば、教育機関としては実務教育体系を高度化する必要があります。座学ではなく、実学が欠かせないのです。

現場での安全作業の重要性については、「緊張感を持続しなさい」ということを、こと細かに実技で教え込みたいと考えています。本校では測量実習の夏季合宿や施工実習、インターンシップなどいろいろな取り組みを従前から実施していますが、今年から仮設組合のご協力を頂きながら正式科目にする「仮設安全管理」についても、「仮設の中にも安全管理の要素が濃厚にあるのだ」ということを教えていこうと思います。さらに、機会があれば高校でも同じような取り組みが行われるよう期待していますし、本校としても協力を惜しまないつもりです。

---

### 手すり先行足場

# 自治体初のモデル工事で現場説明会

## 新潟県の職員32名参加

新潟県は8月5日、当組合北信越支部（太田雅征支部長）の協力を得て、新潟県が2002年度に実施している「手すり先行足場」を採用したモデル工事の建設現場において、現場説明会と安全点検を行いました。新潟県では、墜落事故防止の取り組みとして全国の自治体では初めて手すり先行足場のモデル工事を３カ所で実施しています。現場説明会では、新潟県の職員32名が参加、当組合スタッフの説明に熱心に聞き入っていました。

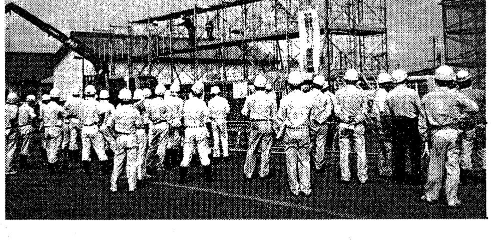
今回の安全点検と現場での説明会は、手すり先行足場のモデル工事のひとつとして実施されている新潟県長岡市福島町の一級河川、稲葉川（猿橋川）関連公共広域河川改修基幹（一級）工事現場で行われました。施工は曙建設です。

この水路敷設工事は、昨年暮れに工事着手しました。地山の掘削、土止め支保工、型枠支保工の組立などの工程を終え、足場や鉄骨の組立など、今年11月末の完成をめざして、工事は最盛期を迎えています。

安全点検は、当組合北信越支部の協力を得て、当組合の仮設安全監理者によって行われました。仮設製品、整備検収、施工などを対象に、点検項目は手すり先行足場24項目、昇降階段24項目に及びました。結果は点検表に記載、実施報告書にまとめられ、改善が必要であれば作業所に対し、「改善依頼」を行うシステムです。

安全点検作業は、新潟県の職員が現場見学するなか、厳密・入念に徹底して行われました。施工者の現場代理人は「現在、工事の進捗率は70％強。初めての手すり先行足場の採用です。当初は慣れないこともありましたが、他の仮設設備に比べると安心感が得られる。専門家の安全点検も勉強になった」と感想を述べていました。

## 足場の組立解体実演も



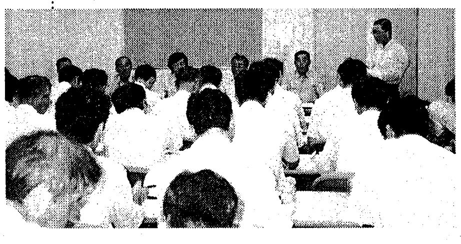
手すり先行工法の説明会。安全な仮設に見入る新潟県職員たち

新潟県の職員も熱心に安全点検を見学

安全点検後、場所を移動し、手すり先行足場システムと先行親綱システムを採用した墜落実験が行われ、ここでは実際に安全帯着用のダミー人形を使い、人体墜落による落下高さと衝撃荷重を検証しました。

また、同足場システムの組立・解体作業の実演なども公開し、在来足場との相違点などをＰＲしました。

新潟県土木部の幹部は「墜落事故防止は発注側にとっても最大のテーマです。仮設（足場）に起因する事故防止に有効となる手すり先行足場に重大な関心をもっている」と現場説明会に参加した動機を語っていました。



新潟県職員より活発な質疑も行われた

---

# 安全な足場試作改造及び成果普及講習会事業

## 委員会が初会合

当組合は、昨年に引続き全国中小企業団体中央会の補助金を得て、安全な足場試作改造及び成果普及講習会事業を行うための委員会（森宜制委員長）を設置、8月1日、組合事務局で第1回目の委員会を開催しました。

今年度の事業は、2001年度に開発した先行手すり機材が実際の現場で使用された結果にもとづき改造項目を検討して試作し、種々の実現場に供用して安全な足場として完成させ、市場に送り出すことにあります。委員会では今後、①先行手すりの強度の検討をする②落下防止機構の再検討③新築工事用に使える、躯体側の墜落を防止できる機能をもつ機材を検討する――ことの3項目について話し合われました。この3項目についてそれぞれの委員が作業を分担することを決定しました。

試作・改造については、本委員会の意向に沿い、作業部会が具体化する予定です。

委員は次の通りです（＊印は作業部会委員も兼務）。

▽委員長＝森宜制森構造研究所代表▽委員＝蟹澤宏剛ものつくり大学建設技能工芸学科専任講師、小川勝教建設業労働災害防止協会専門調査役、杉本明清水建設建築事業本部建築構造技術部主査、藤間壮吉戸田建設安全監理部部長、井上邦夫皆栄建設工業代表取締役（＊）、柳澤一美協立機材代表取締役会長（＊）、金子弘日建リース工業資材運用部部長（＊）、大久保卓也杉孝商品開発グループ課長（＊）、堀義之新日本ビテイ営業第一部部長（＊）、森田豊ホリーエンジニアリング常務（＊作業部会委員長）、新敏志太平産業建材部部長（＊）

---

## 関東支部が９月４日に「仮設安全大会」

当組合関東支部（杉山信夫支部長）は９月４日午前10時から午後３時の日程で、東京・東池袋の池袋サンシャインシティ文化会館４階（展示ホールＢ）を会場に、「関東仮設安全大会」を開催します。軽仮設リース業協会関東支部の協賛、日刊建設通信新聞社らの後援を得ています。

大会では東京労働局、国土交通省関東地方整備局、建設業労働災害防止協会東京支部からの祝辞のほか、当組合関東支部の堀義之副支部長による大会宣言が予定されています。また、九州大学大学院の松藤泰典教授によるテーマ「仮設安全工学の試み」が特別講演として行われます。さらに、午後からは当組合の紹介ビデオの上映会、安全な仮設機材の展示会が催されます。

展示会は、手すり先行工法や２段手すり、つま先板などの機材展示のほか、安全な仮設機材の体感コーナーや安全点検実務なども紹介します。

実演や展示企業は以下のとおりです。

▷足場機材＝アルインコ、シンニッタン、住友金属建材、全国仮設安全事業協同組合、中央ビルト工業、日エセック、日綜産業、ピカコーポレイション、ホリーエンジニアリング

▷仮設資材＝市川漁網製造、キョーワ、大嘉産業、日本セイフティー、東山産業、明治商工

---

## 組合パンフレットを刷新

ACCESS
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
見える安全　感じる安心
全国仮設安全事業協同組合

当組合ではこのほど、パンフレット「ＡＣＣＥＳＳ」を一新しました＝写真。

組合創立３年目を迎え、事業活動も多岐にわたっていることを踏まえて刷新したものです。当組合の事業推進理念、各種事業活動紹介、建設業労災データなどを満載しています。お問い合わせは当組合の本部広報室まで。

---

## 読者の声

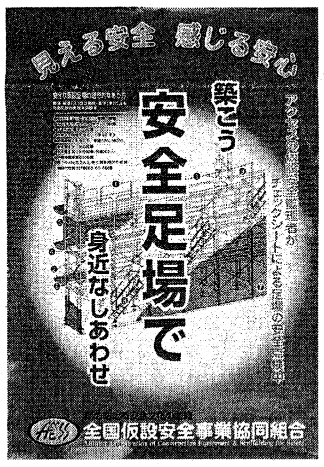
自分は現場を卒業して随分経つが、現場に勤務していたころは毎日が緊張の連続だった。とくに中小規模の建築工事がそうだった。躯体が立ち上がるに連れて、「開口部から人が落ちないか」「資材や機材につまづいて作業員がケガをしないか」と心配で、巡回のときは整理整頓や養生の周知徹底を口をすっぱくして言っていたものです。ニュースの事故もそうだが、事故は馴れや「こんなもんで大丈夫」といった油断が原因のことが大きいと思う。人間は油断する生き物だから、メリハリの効いた緊張感を持った作業が大事ではないか。最もいけないのは、「ヒューマンエラーは仕方がない」といった、あきらめと防止措置をおろそかにすることである。

（事務職、38歳）

私は一次下請会社に勤務する新入生の教育担当をしている者です。会社の職種は鳶です。2年程前から元請会社さんの営業所の施設を借りて「訓練校」を開いています。新入生は3カ月間、ＯＪＴを含めて鍛えます。今期は7人が入ってきて、6月に終了式を行いました。中にはふてくされ気味の開き直った姿勢の者もいます。しかし、3カ月過ぎると目に力が宿り、あいさつもきちんとするいっぱしの社会人のなります。その中の1人が、足場架設研修のとき足を滑らせて、墜落したことがありました。3段目の架設のときでしたが、安全帯と周りには何もなかったことが大事に至らなかったと思います。本人はテレ笑いをしていましたが、青く引きつった顔は事の重大さに気付いているようでした。いつまでも慎重な作業姿勢で活躍し、一人前の鳶になってほしいと思っています。

（「とび職人が大好き」さん、52歳）

---



見える安全　感じる安心
築こう
安全足場で
身近なしあわせ
全国仮設安全事業協同組合

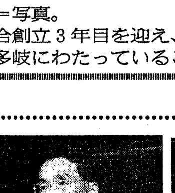
## 02年度版ポスターを制作

当組合ではスローガン「見える安全　感じる安心」を主題とした2002年度版のポスターを制作しました。

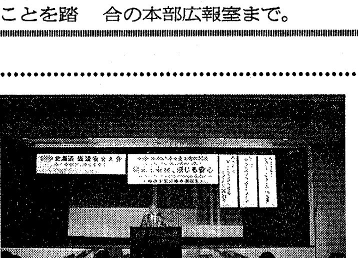
私たち組合が推奨する理想の足場をメーンに、安全への理念を表現しています。現場、事業所などに掲示して安全文化の創造の一助としていきます。

---

# 北海道仮設安全大会



大会式辞を述べる片桐支部長



仮設に起因する労働災害を撲滅しようと「見える安全、感じる安心」をテーマに、全国仮設安全事業協同組合北海道支部（片桐理支部長）主催による北海道仮設安全大会が7月26日、札幌パークホテルで開かれました＝写真。

大会には道内外から関係者約300人が参加しました。

片桐支部長は国土交通省、農林水産省による手すり先行足場を採用した安全モデル工事が年々増えていることを報告し「仮設に対する安全対策を時代の要望とひしひしと感じる。建設業、関係官庁、建設と歩調をあわせて、仮設に起因する労働災害防止に向け進んでいく」とあいさつしました。小野辰雄理事長はソフト面での計画に基づいた作業、安全点検、ハード面での“落ちない足場”の提供を強く指摘し「足場のスペシャリストとして、先進安全設備に肩を並べるような、安心して働かせる心豊かな国づくりをめざしたい」と呼びかけました。

このあと、北海道労働局の平松全一安全課長、北海道開発局の片倉浩司工事評価管理官、建設業労働災害防止協会北海道支部の横江須美夫理事・事務局長が祝辞を述べ、今後の組合の活動に期待を寄せました。

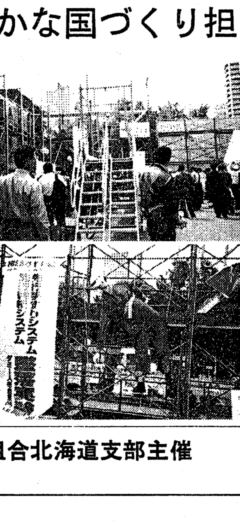
大会では、現場の安全施工監理者の育成や安全点検の一層の充実、安全仮設機材の開発と普及などを盛り込んだ大会宣言を行い、仮設に起因する災害防止への決意を出席者一同が誓い合いました。また、特別講演として労働安全コンサルタントの清宮夫氏が「来島海峡大橋の架設と安全」をテーマに講演。会場のホテル敷地内では手すり先行足場をはじめとする仮設機材の屋外展示も催されました。

大会終了後会見した片桐支部長と小野理事長は、国の手すり先行足場のモデル工事を北海道や札幌市でも実施する動きがあることに強く期待するほか、ハード・ソフトの両面から労働災害の撲滅を図っていくことを強調しました。

あいさつする小野理事長

## 心豊かな国づくり担うスペシャリストの気概新た

大会宣言する早川信義副支部長

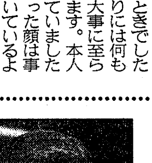


屋外では「手すり先行工法」など安全な足場機材が展示され、ダミー人形を使った墜落実験も行われた

清宮氏による特別講演

## 祝辞　北海道仮設安全大会に寄せて

### 墜落・転落減少に安全な足場を



北海道労働局労働基準部
安全課長
平松　全一氏

北海道の建設業での死亡災害は2000年に54人、01年が39人で大幅に減少している。しかし、産業別に見ると一番多い業種となっており、死亡災害を減らさなければならない業種といえる。事故の内訳としては墜落・転落が一番多い。手すり先行足場など安全な足場が行き渡り、建設作業が安心して行えるようになることは誠に時宜に適した、好ましいことと考える。

### 重要な各段階での積極的な姿勢

北海道開発局事業振興部
工事評価管理官
片倉　浩司氏

北海道開発局としては安全確保を考慮した設計の実施、施工条件の的確な明示、発注の平準化、安全確保に必要な経費の適正な計上に努めている。また、仮設については、単に工事目的物をつくるための一時的な工作物だけではなく、建設工事に従事する方の貴重な人命を守るとともに、第３者への影響を防止するという重要な役割がある。工事目的物にふさわしい仮設を計画、設計、施工、使用する者の安全に対する積極的な姿勢が何よりも重要であると考えている。

### 建災防活動にとっても心強い団体

建設業労働災害防止協会
北海道支部理事・事務局長
横江　須美夫氏

死亡災害の多くを占めている墜落災害については、足場工の仮設物からのものが多くなっている。仮設物については労働災害の撲滅を第一に取り組まれている貴協同組合の関係になるが、現在使用されている仮設物は従来のものと違い、非常に安全に配慮されかつ利便性や簡易性に優れている。その新工法がややもすると手抜きをされ、誤った使い方をされることによって、安全に配慮された効果を失わさせる可能性があると危惧している。また、貴組合は私ども建災防にとって心強い団体と認識させて頂いている。

テーマ「見える安全、感じる安心」　全国仮設安全事業協同組合北海道支部主催